

頌 栄

No. 105

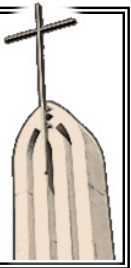
日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



今こそ、心からわたしに立ち帰れ

牧師 清弘 剛生

主は言われる。「今こそ、心からわたしに立ち帰れ／断食し、泣き悲しんで。衣を裂くのではなく／お前たちの心を引き裂け。」ヨエル書 2・12-13

ヨエルが活動した紀元前五世紀ごろ、エルサレム周辺一帯にいなごの襲来による災害がありました。刈り入れ時の喜びの声は一転して嘆きと悲しみの叫びとなりました。

想定していない出来事は避けられません。人間はありとあらゆる不可抗力のもとに生きていますから。それゆえにまた、嘆きのない人生もあり得ません。しかし、嘆き悲しむことには二通りあります。死に

至る悲しみと、命に至る悲しみです（2コリント7・10）。死に至る悲しみとは、ただ災いを嘆く悲しみです。失ったものを数えながら嘆く悲しみです。このような悲しみには救いがありません。しかし、そうでない悲しみもあります。

災いを悲しむのではなく、罪を嘆く悲しみです。自分の生き方が間違っていたこと、神に対する在り方が間違っていたことを嘆く悲しみです。

この悲しみには希望があります。なぜなら、過去に戻ることはできませんが、未来に向かって人生の方向は変え得るからです。想定外の出来事は神の御前にへりくだされ、自

らの姿とこれまでの歩みに目が開かれる契機ともなります。そして、人は神の呼び声を聞くのです。「今こそ、心からわたしに立ち帰れ」と。そこでただ事態が元通りになることを願う求めるのではなく、その悲しみを通して真に神に立ち帰り、未来に向かって自分自身が変わることを願う求めるならば、それは命に至る悲しみとなるのです。

新型コロナウイルスのパンデミックから間もなく一年が過ぎようとしています。いまだ収束の兆しは見えません。そのような中で迎えたレントの最初の日「灰の水曜日」の聖書日課として与えられたのは冒頭に挙げた御言葉でした。このように呼びかけられている私たちは今、何を願う求めているのでしょうか。